

答：本市には「公設公営」「民設民営」「公設民営」の三種の運営方式を持つケーブルネットワークテレビが存在することになるが、市域の均衡ある発展のためには、運営形態一本化の必要があると認識している。「三原市情報化計画」を策定し、将来の運営を見越した整備を行い、できるだけ早く「公設民営」方式へ統一したい。

公共サービス向上のため、一定の公費負担は必要だが、受益者負担を原則に、一層のサービス向上で加入者促進を図り、民間の持つ効率的ノウハウの活用なども視野に入れ、経費削減に努めて、経営の健全性を保持したい。

市道認定と私道整備

問：過去、造成により築造された市道認定基準に満たない私道でも、公共性の高いものは市道認定をし、舗装などの整備をすべきではないか。

答：三原市の市道認定基準は、車輛や歩行者の安全な通行の確保、緊急車輛の通行などを考慮し、道路幅員4メートル以上で行き止まり道路でないことが主な認定要件となっている。

市道認定要件を満たさない道路で、市民生活に密着した私道の整備については、私道整備事業補助金交付要綱により、200万円を限度に、工事費の2分の1を補助する制度がある。

この制度は、幅員4メートル以上が要件になっていたが、「開発事業に関する技術的指導

基準」が施行された昭和49年度以前の開発行為に伴う道路には、幅員を3メートル以上に緩和している。当面は現行の基準で対応していきたい。

駅周辺に観光コースを

問：三原駅周辺には、三原城跡・舟入櫓（ふないりやぐら）・お寺や瀬戸内海を一望できる桜山がある。駅前を中心とした散策コースの整備をしてはどうか。

答：恵まれた自然環境と、歴史的文化的資源を活かした魅力ある観光のまちづくりとして、三原駅周辺の観光散策コースの充実が必要と考えている。

散策コースとしては、瀬戸内海の多島美が眺望できる桜山、旧城下の神社・仏閣巡り、三原城跡を起点に舟入櫓までの周辺散策がある。これからの観光PRの最新のパンフレットを、三原駅構内の浮城ロビーやホテルのフロントなどに配布し、三原駅周辺の観光案内板の改修も行う。

桜山の展望台については、所有者や近隣の関係者との協議が



▲舟入櫓（ジャスコ西）



▲お堀から桜山を望む

必要と考えている。観光協会などの関係団体と連携をとりながら積極的に進めたい。

人権問題の諸課題は

問：「一人ひとりの人権が尊重され、全ての市民が生き生きと生活できるまちづくりをめざす施策を推進する」となっているが、実態把握の分析と個別課題の取り組みはどうか。

答：新市として「三原市人権教育啓発推進計画」を策定することになっている。この計画では、一人ひとりが、人権問題を自らの問題として受け止め、実践することが必要であり、地域・学校・職場・講演会などの学習機会を確保する。

行政内組織、及び各種団体との有効機能を図り、効果的に推進していく。同和問題をはじめとする個別課題の解決に向け、具体的な人権課題に則し、創意工夫をし、今後とも地道にねばり強く啓発を続ける。

学校教育の諸課題は

問：「人を育む教育・文化のまちづくり」についての学校教育を取り巻く課題について伺いたい。

答：義務教育の国庫負担制度が堅持できるよう取り組んでいく。「職員の健康管理システム」の制度を周知し、健康管理に努める。

教科書の採択は、三原市の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択するため、公正かつ適正に取り組んでいく。

不登校については、「三原地域スクリーニング・サポート・センター整備事業」を活用していく。

高校に進学できない生徒が、年々増加しているとは言えない。今後とも「進路指導主事研修」などで適切な指導をしていく。

人権教育、平和教育は、基本的人権の尊重と平和を希求する心の育成を図り、豊かな心を持った、社会に貢献できる人づくりを基本として取り組む。

病児保育の支援事業を

問：働く保護者の子育てを支援するため、病中・病後の子どもを一時的に預かる「乳幼児健康支援一時預かり事業」を、本市でも展開してはどうか。

答：集団保育の困難な病後の回復期において、児童を保育所や病院等に付設された専用スペースで預かり、保護者の子育てと仕事の両立を支援することは大切であると考えている。国の補助事業「乳幼児健康支援一時預かり事業」は県内では8市町13か

所の施設で実施されている。

本市においても「三原市次世代育成支援行動計画」策定の過程において議論され、今後5か年の事業目標として、民間の保育所などでの実施1か所を掲げており、取り組んでいきたい。



▲保育所のひとコマ

すなみ海浜公園駅の設置を

問：呉線沿線有数の観光スポットである「すなみ海浜公園」に直結する駅を設置し、観光のまちづくりに寄与するとともに、利用者の利便性を高めてはどうか。

答：当該地域には、須波ハイツ・すなみ海浜公園・民間温泉施設などがあり、これまでJRと非公式に協議してきた経緯もあるが、設置には至っていない。

新駅は、須波ハイツ及び幸崎町久和喜の住民、また、すなみ海浜公園利用者の利便性の向上に寄与するとともに、年間約16万人が利用している、民間温泉施設へのJRの利用が可能となり、本市への観光客の増加が期待できるものと考えている。

今後、新駅設置に向け、関係諸団体と協議を重ねていきたい。

質 問 者

高下	正則・白須	均
高木	武子・岡崎	敏彦
松浦	良一・堀	正登
森重	一裕・中西	正信
寺田	元子・下西	勝彦
真嶋	智・仁ノ岡	範之
七川	義明・谷口	佳寿子



▲呉線とすなみ海浜公園周辺